



\* M 0 6 2 9 0 Y X 0 W I 0 C C 1 9 0 4 3 0 0 0 0 0 0 0 3 1 \*

29日付 タワイド1YX版 校正回数=54 54倍 4.2x 42行 0.0  
MC1 2020年06月26日14時29分12秒  
箱組 ID=CC19043000000031  
◎取置はこ/私の視点から

# わたしの 視点から

東日本大震災からの地域復興や地域づくりに関わり、今春から教員の立場を頂き、地域の課題について学生と共に考えています。今取り組んでいるのは、地域に貢献する企業の事例から「現在の状況」と「目指すべき未来」、「現状を放置したら来てしまふ望まない未来」を三角形で整理し、その間にある「問題」と、問題を解決するために取り組む「課題や打ち手」を考える、というものです。

学生の視点やアイデアは本当に多様で、私も、協力を頂いている企業の方も「なるほど」という考え方もあります。毎回新たな気づきを得ています。この方法の特徴は、地域や企業が選択した事例はあっても、一つの正解があるわけではないことです。「答えは一つではなく、無数にある」。地域社会と向き合う練習と言えるか



昨年のみやぎボイスの様子。今年は10月に実施する予定

## 復興の先 言葉で表現



東北学院大地域連携センター  
特任准教授  
石塚 直樹

もしれません。同じようなことが、震災から10年を目前とした被災地域においても起きていると感じています。これまでには住まいの再建や自治会の設立、生業の再建など、「復興」という同じ目標に向かってみんなを取り組んできました。現状はもはや「復興」という言葉だけでは、被災地域や被災された方々の現状や目指すべき未来を正確に捉えることは難しくなっています。

これらの状況は一見停滞をしているようで、もどかしさを感じることがありますが、決して悪いことではありません。言い方を変えれば、それだけ復興が進んで、日常が戻りつつある、ということがもしません。

これらの状況の背景には、「何をもって復興なのか」という問いが見え隠れします。昨年運営に参画し、仙台市で実施した震災からの復興の在り方を探るラウンドテーブル型シンポジウム「みやぎボイス2019」での議論から私が見た仮説は、「復興の達成や終わりは、いかに一人一人が、復興とは異なる言葉で、在りたい姿や目指すべき未来を表現できているかで測ることができるとはではないか」というものでした。

今まさに必要なのは、「自分の言葉で表現すること」かもしれません。皆さんもぜひ、復興の先にある、自分の目指すべき未来を表現してみたいかがでしょうか。

★DVCG FAHOUTSV  
★CHRG ( )  
★IMG ( )  
★EPS ( )

(O1DE)